

Peshawar-kai

ペシャワール会報

ペシャワール会事務局
〒810-0023 福岡市中央区警固
2-1-17 ハイツみかけ803号
TEL 092 (731) 2372
FAX 092 (731) 2373

No.127

2016年4月13日

〈URL〉 <http://www1a.biglobe.ne.jp/peshawar/>

〈E-mail〉 peshawar@kkh.biglobe.ne.jp



表紙絵 チェル（四十）／画・甲斐大策

飢饉が確実視される中、PMS作業地では作物の増産

中村 哲

難民とならず家族が暮らせませす

ムニール グル

妊産婦の保健相談もできるようになりました

パリ グル

ドクター中村のもとで25年間働いてきました

グラム ナビ

新人スタッフとして山田堰を訪れる

東 達也

●カラー特集 蛇籠工・柳枝工

ペシャワール会は、1983年9月、中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成されました。彼の活動を支援するとともに、アジアの人々への理解を深めていきたいと願っています。

飢饉が確実視される中、

PMS作業地では作物の増産

——ミラーン堰は事実上完成、ガンベリ農場も合法的所有

PMS（平和医療団・日本）総院長／ベシャワール会現地代表 中村 哲

みなさん、お元気ですか。アフガニスタンは春分を控え、日に日に暖かくなっています。用水路沿いの柳の新緑が鮮やかです。増水が間もなく始まり、河川工事が一息つくこととなります。

異常気象と飢饉

ここは冬が雨季で、例年なら高山に雪が積り、低地は湿気を帯びます。積雪は貯水槽で、その年の川の水量を決めると共に、低地の雨は主食の小麦の収穫を保障します。

しかし、今冬は異例の少雨でした。東部では、冬中を通して、わずか一週間前後の雨しか降らず、天水に頼る麦作が全滅しました。河川も異常に水位が下がり、細々と川の水に頼ってきた地域も取水できず、灌漑水を諦めた地域が沢山ありました。飢饉が確実視されています。

しかし、PMSの作業地では、カマ第I

堰で臨時塞ぎ上げを余儀なくされたものの、総じて良く機能しており、濁水を乗り切りました。このため、ナンガラハル州北部ジャラバードは民心が安定し、人口が爆発的に集中しています。北にあるクナール州は飢饉が広がり、土漠と化したナンガラハル州南部、スピンガル山麓では外国から来た武装グループが跋扈、市内に難民が急増しています。

この中において、PMS作業地周辺では、農業生産が増しただけゆとりがあり、多くの難民に職を与える場にもなっているようです。沿道には所狭しとバザールが広がり、野菜果物などの農産物が売られています。人々が行き交い、降ってわいたような賑わいが到る所で見られるようになりました。「もしここが沙漠地帯のままだったら、大混乱だったろう」と人々は感謝します。このところ、以前のようにパキスタン



ここ数年の洪水で殆ど壊滅した既存の取水堰と取水口 ミラーン堰上流対岸 (2016年2月17日)

側へ難民化することさえできない状態が続いているからです。

河から人里を見る視点

これまで報告したように、「緑の大地計画」は、「二〇二〇年までに安定灌漑地域一六、五〇〇ha（六五万人）」を目標に掲げ、努力が続けられています。現在JIC A（国際協力機構）共同事業で建設中のミ



完成したミラーン取水口。水量は豊富に取れ、予定の1100ヘクタール以上を潤せる（2016年2月）

ライン堰が完成すると、その約九〇％以上をカバーすることになります。
ミラーン堰は事実上完成し、今年秋に全作業を終えます。着工以来一年半、苦難の連続でしたが、職員・作業員たちの根気と気力で乗り切ろうとしています。
河川は何が起きるか予測が付きません。昨夏の大洪水で上流に大きな支流が発生、対岸村落の数百ヘクタールが耕地を失った



上：現在進行中のミラーン堰上流のしめぎり堤護岸工事で広大な地域に恩恵が及ぼうとしている。ミラーン護岸堤防を加えると4680mとなり、PMSにとっては記録的

右：しめぎり堤。高上げと同時に石出し水制(30基以上)で根固めを施す



上、主流が二分されて建設中の堰に十分な水量が来なくなつたのです。このため、低水位の冬を待ち、分流をしめきって水量を回復しました。このしめきり堤建設がまた、泥沼の難工事となりました。上がってくる河の水位に焦りながら、現在約2kmに及ぶ堤防建設が続けられています。

取水堰の建設は、周辺河川の治水、洪水対策と切り離せません。日本では、河川局と農政局が協力し、この種の工事が行われますが、現地では、そういった行政組織そのものがまともありません。また、この情勢下で、当分実現する見通しはないと思います。いきおい、自分たちで地域行政や自治会と力を併せてやらざるを得ません。この辺りが、日本側で理解されにくいことの一つです。しかし、逆に言うと、国家間援助が機能しにくい故に、地域に根ざす私たちの役割があるのでしよう。

今回のミラーン堰建設は、様々な教訓を残しました。技術的には、急流河川の治水Ⅱ河道整備と適切な護岸です。今まで人里から河を見てきましたが、河から人里を見る視点です。今回の事業で更に鍛えられ、私たちなりに一つの適正技術が確立されたと考えています。

広域普及と訓練所設立

「地元で維持可能」、「現場主義」と口で言

うのは簡単ですが、実際に手を染めれば、相手は大自然と、日本人になじみの薄い風土や文化、そう思い通りにはいきません。近代的な都市空間で暮らしていると、ますます自然から遠ざかり、ことばや情報だけで事が進むような錯覚に陥ってしまいます。日本だけでなく、ここアフガニスタンも同じで、「取水堰の重要性」を理屈で納得してもらうのは五分で済み、取水堰を作るのは五年以上かかります。PMS方式の取水技術を他地域へ普及する模索が始まっています。技術者らを講義ではなく、現場作業で長期的に育成する方針です。

とはいえ、他の地域では農地荒廃の進行が予想以上に早く、見るに忍びないものがあります。PMSは、これまでの行きがかりを捨てて、心ある全勢力と大同、当面は訓練所設立が課題になっています。その教材の一環として、PMSの灌漑技術を紹介する書籍の出版や、斜め堰の模型製作なども計画されています。

しかし、この動きに関連して、殺人的な渉外・事務処理に追われてきました。それも緊急工事に忙殺される中です。この方面で日本側の協力がなければ長続きしないことを身にしみて痛感、その目的で最近日本側で発足した「現地支援室」（仮称）の充実が、今後のカギを握ると見えています。



コーティ、タラーン、カチャラ、ベラの各村自治会代表らと会議。写真右列奥に中村医師、その隣にはジア医師等PMS職員達(2016年2月18日)

第二マルワリード用水路（対岸への展開）

また、今回の事業は、計画地の中で残る聖域であった対岸地帯へのアプローチを容易にしました。この地域を今秋着工の予定地に選び、対岸四ヶ村（約三万名・耕地面積八五〇ha）の復興を手がけます。おそらく、マルワリード用水路建設に次ぐ大仕事になります。同時にカシコート用水路九・八kmの建設、ガンベリ地域の排水路網の建設を進めます。

かくて「緑の大地計画」は、長い仕上げ



マルワリードⅡ計画地域全体図（2016年2月）

段階に入ります。詳細は追って紹介します。

無条件に現地の生命を考える

「日本が困っているのに」と批評する声、逆に平和運動の一環と見なして支持する声も聞きます。だが、逃げ場のない現地の人々の生命を無条件に考える評者は、少なかつたと思います。この火急の折、つまらない争いや議論に巻き込まれず、着実に歩みたいと考えています。健康な者に医者はいりません。本当に窮している今でこそ、力添えが必要だからです。

殺伐な話が多い中、ここには希望と人間らしい喜びがあります。困った人々



ガンベリ農場の土地貸与契約成立（2016年2月20日）

を救済するという美談ではありません。私たちもまた、人の温もりに触れ、自然の恵みを知り、生きる気力を養ってきました。皆様の協力なしに、本事業はありませんでした。変わらぬ温かいご関心に感謝し、引き続き、力を尽くしたいと思います。

平成二八年三月 ジャララバードにて
ガンベリ農場 合法的な所有なる
追伸。

「自立定着村構想」は、行政側の新規定で

方針を変え、その第一歩として、「ガンベリ農場の合法的所有」が、この三年間の最大懸案でした。最近、ペシャワール会や大使館初め、各方面の協力を得て、落着いてきました。去る二月二〇日、カブール政府の土地管理局で署名式が行われました。

これによってPMSは自立と存続の基礎を得ました。ジア先生以下、地元努力は大変なもので、血のにじむようなやり取り



ガンベリ沙漠に建設したPMS農業事務所。職員と地域の作業員、そして無数の協力によって造られた（2016年3月17日）

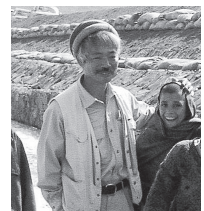
でしたが、二二〇町歩を合法所有、二〇年間自由に農地として使え、PMSが続く限り二〇年毎に更新できます。小生はそんなに長く生きませんが、モデル農場は、職員の自活だけでなく、きつと地域の農業振興の上で、大きな働きをしたいと思います。今後の焦点は、いかにPMSを継続させるかになってきました。

まずは、感謝を以て、お伝えします。



主幹排水路着工式の祈り。シギ村（2016年3月1日）

一九八四年、パキスタン・カイバル・パクトゥンクワ州（旧北西辺境州）の州都ペシャワールに赴任。ハンセン病の診療を柱にした、貧困層の診療に携る。八六年からはアフガン難民のための事業を設立し、アフガン北東山岳部に三つの診療所を開設。九八年には基地病院PMSをペシャワールに建設。また、病院・診療所で患者を待つだけでなく、パキスタン北部山岳地帯の診療所を拠点に巡回診療も開始した。最大時一〇カ所の診療所を運営。二〇〇〇年以降は、アフガンニスタンを襲った大干ばつ対策のための水源確保（井戸掘り・カレズの復旧。作業地千六百カ所以上）事業を実践。さらに〇二年春からアフガン東部山村での長期的復興計画「緑の大地計画」を開始。〇三年三月からは灌漑水利計画に着手し、一〇年三月全長約二五キロが開通した。ガラエヌール診療所の年間診療数約四万六千人（二〇一四年度）。



中村 哲：九州大学医学部卒。専門は神経内科（現地では内科・外科もこなす）。国内の病院勤務を経て、

【カラー特集】^{じゃかご}蛇籠工・^{りゅうし}柳枝工

PMSの水路護岸工事に不可欠の蛇籠工、柳枝工を各作業地の写真で紹介します。



上:2003年のPMS作業場。メッキ加工された3ミリと4ミリの鉄線をPMS規定の寸法に切って蛇籠編みの下準備をする。現在は鉄筋加工や土管造りと共にガンベリ農業事務所の隣に作業場を置き、ザミールグループ責任者率いるチームが働いている(2003年6月25日)

右:蛇籠を編む。2003年から始めたPMS蛇籠作業場。今ではベテラン技師となっている(2003年8月19日)



ガンベリ沙漠横断水路。編んだ平面の網を、現場で繋ぎ合わせ石を詰めて籠を閉じる(2009年4月9日)



カシコト主幹水路。地域の作業員たちの労苦によって積み上げられた蛇籠は壮観(2013年1月14日)



上：カマ第Ⅱ主幹水路。用水路両壁の蛇籠工背面に柳の枝を挿し木する（柳枝工）（2013年1月14日）

右：柳枝工に使用する柳の枝。マルワリード用水路用に柳枝工を始めた時、周辺の村に呼びかけ、小枝1本1ルピー（約2円弱）で買い取っていた。時には写真のように大量に持ち込む村民もいた。現在では柳も十分成長し自前で準備が出来るようになっている（2005年11月9日）





用水路浚渫中。2段目の蛇籠の背面に柳を挿し木して7年後のマルワリード用水路。蛇籠の石は柳の根で見えない。周りの樹の幹は成長した柳である（2011年10月12日）



ガンベリ横断水路。蛇籠工と柳枝工を施した用水路。柳がこの位成長すると蛇籠の石の間に根がびっしり入り込み、水やりは要らなくなる（2015年7月11日）



ベースド護岸堤に施された植生工。河側法面の巨礫間に柳枝工、堤2段目法尻^{のりじり}にはユーカリが植えられた。石の間に芽吹いた柳が見える（2011年4月16日）



上写真と同所を対岸から見る。柳枝工4年後の増水期。河に面しているのは柳、その後ろはユーカリ（2015年7月8日）



ミラーン堰工事では、新たなころみとして、砂州固定に柳枝工が施された（2015年11月19日）

◎現地スタッフからの便り

難民とならず

家族が暮らせます

PMS職員／フィールドアシスタント

ムニールグル

私は、ナンガラハル州ホギヤニ郡出身のヌールグルの息子、ムニールグルと申します。

PMSにはメカニックとして二〇〇一年に雇用され、最初はソルフロッド郡での飲料水の井戸掘り事業に従事しました。さらにロダットやアチン郡での同様の井戸掘り事業で働きました。この事業で、干ばつで困っていた周辺住民に清潔な水や仕事を提供することができました。その後、灌漑事業のマルワリード水路建設で重機関係の仕事に携わりました。マルワリード水路二五km地点のガンベリ沙漠に到達して以降は、PMSのガンベリ沙漠開拓農場で働いています。

この仕事のおかげで家族のためにまっとうな収入を得られるだけでなく、自分の国

に奉仕することが出来ています。

PMSジャパンには、私の経済的状況をプラスの方向に向けて、難民とならずに自分の村で生活できるようにして下さいました事に深く感謝しています。

多謝 二〇一六年二月末



ガンベリ農園のオレンジ園 (2015年10月11日)

妊産婦の保健相談も

できるようになりました

PMS職員／助産師

パリグル

私はサハルグルの娘で、パリグルと申します。一三六四年アフガン暦（西暦一九八六年）に、ナンガラハル・ヘルス・インスティテュートの看護・助産師学科を卒業しました。PMSに勤める前は、ナンガラハル州立病院と民間病院で働いていました。助産師としてPMSに雇用されたのは二〇一二年四月二一日で、勤務先はガラエヌールのカライシャヒ村にあるPMSガラエヌール診療所でした。朝八時に出勤し、女性に多い神経痛患者の受付を済ませた後、検診室で小児の保健や家族計画について女性患者さん達に指導をしています。出産前や出産後の検査をして薬を出したり、検診をし出産にも付き添います。

私がこのカライシャヒ村の診療所で働くことを、周辺住民は大変喜んでいました。私がおこに来る前は、妊産婦はジャララバード市民病院まで行って妊婦健診、出産指導

を受けなければなりませんでしたが、現在ではこの診療所で妊婦さん達の保健相談や出産指導までが出来るようになりました。また、PMSは医療以外にも、マルワリード用水路をはじめ、カシコート、シギ、カシマバード（ベスード）、シェイワ、ミラーン、カマでの既存の取水口改修・建設、さらにはガンベリ沙漠での農業（自立定着村）などたくさんの方々の事業を行っており、ナ



母子保健向上のため州の保健省、ダラエヌール各村自治会代表が参加しての式典。勤続20年以上の古参と新職員たちで営々と診療が続けられている（2013年2月9日）

ンガラハル州の住民はPMSのこれらの事業にとっても感謝しています。皆様に感謝致

します。

ドクター中村のもとで 二五年間働いてきました

PMS職員／運転手

グラム ナビ

私はナンガラハル州カマ郡カラピールザイ村出身のミール アブ オドワードの息子で、グラム ナビと申します。

私は一九九一年にパキスタンのペシャワールにあったPMSのJAMS病院（ジャパン・アフガン・メディカルサービス）の運転手として勤め始めました。

その後は、アフガニスタンの山岳無医村地区ダラエヌール、ダラエワマ、ダラエピーチ各診療所や、パキスタンの山岳無医村地区ラシュトのヤルフーン、マストージ、コーヒスタン、二〇〇一年三月にはカーブルのカラエザマンハーン、ダシュトバルチ、チャルストーン診療所など数多くの任地で勤務しました。

さらに、干ばつで食糧難に遭遇していた

アフガニスタンの首都カーブルやジャラバードでの緊急食料配給の事業でも働き、アチン、チャプラハール、ダラエヌール、ソルフロッドでの井戸掘削現場でも働きました。

ペシャワールの基地病院ではドクター中



ガンベリ農場のアルファルファー畑で。グラム ナビ運転手（右）

村や日本人ワーカーの運転手を五年間担当し、シェイワ、カシコート、カシマバード、カム第Ⅰ、カム第Ⅱの取水口建設、カムⅡベスード水利事業、ミラーン取水口建設等に従事して来ました。

これまで長くPMSに務めてきました

◎ワーカー通信

新人スタッフとして

山田堰を訪れる

ペシャワール会事務局・現地連絡員

東 達也

川

ペシャワール会で働き始めて一カ月、本当は今頃アフガニスタンで現地のみんなと働いている予定でしたが、事務所での仕事が続いています。仕事を覚えながら、英語、パシクトゥ語、河のことを勉強しています。

私は福岡県の南部にある矢部川と星野川が交わる場所で育ちました。川遊びがあん

が、PMSスタッフの皆さん、特にドクター中村とドクタージアウルラフマンには、私をPMSの一員として受け入れて下さった事に心から感謝しています。ご支援に感謝致します。

二〇一六年二月末

なに楽しかったのは、多種多様な生物が子どもの心を飽きさせなかったからかなと思います。やまたら蟹、すっぽん、うなぎ、鮎。仕掛けをあげる前は胸が高鳴り、友達と大漁を祝って、とった魚を塩焼きにして食べることは格別のご褒美でした。

その後、社会にでて建築現場で働いていた経験から、中村先生の描かれた設計図を見ながら藤田さんの話とともに現地のことを想像します。

山田堰を訪れて

私のペシャワール会での初仕事は筑後川の上流部、朝倉市にある山田堰ぜきの見学です。江戸時代につくられた工法で、これがマルワリード堰の元となったと聞いていました。事務所の先輩方は何度も訪れている

ようで、測量や気になる点を見ながら、私にも山田堰のことをたくさん教えてくれます。「ほー」、「なるほど」と思うことはどれも単純なことですが、勿論知らないことばかりです。山田堰では、水の流れをつかき、水の力を拡散させ、堰自身の浸食や崩壊をふせいでいます。水の特徴をつかき



ペシャワール会事務所で作業中の筆者（左）、浦田、石橋（2016年3月30日）



山田堰（福岡県朝倉市）

て、堰を護るための特徴を以下に紹介させていただきます。

勾配と突起石で堰を護る

私たちの生活の中で身の回りにある水勾配には、台所、風呂、便所等、水をつかうところにある排水配管があります。排水も川同様に、高いところから低いところへ流

れます。道路の下に埋設されている、とても大きな排水本管も同様です。勾配を設けることで水を流します。川の水と排水の水が流れる原理は同じことだと思えますが、絶対的に違うのが水の量だと思えます。雨がたたくさん降り、洪水がおこれば、川は茶色の濁流となり、ボートを浮かべ川下りをするものなら転覆し、体は傷だらけ、骨折までしてしまふ。なすすべはなく、想像を超える衝撃と力が、体を無茶苦茶にする。堰は終始この衝撃をうけて機能しなければならぬ。堰が単なる構造物の箱だったら、水がぶつかり崩壊してしまうのは想像できます。

山田堰が数百年機能し続けるのにはいくつかの作用があるのでしよう。その中のひとつ、勾配を利用し堰を護る技法は、まず堰全体を見渡すと、水が勾配にあわせて流れていくのがみえます。次に堰の中を歩いてみると、さまざまに枝わかれしながら水が流れていきます。水が一点に集まり大きな流れにならないように、広域な勾配で水を振り分ける勾配分配と、小域な勾配で、こちちからきた水とそちちからきた水が、ぶつかる、勾配尺度を設けています。水の特性をつかうことで、水が振り分けられ、ぶつかり、勢いを弱めるように勾配設計し

サファル・バハエル！（良い旅を）

チエル（四十）

甲斐大衆

25

バルフで、政府が人々から徴収した銃を潰す作業に従事していたトルクメンのドゥガル（双子）兄弟はこの日、四十日ぶりにマザールへ戻った。誰の国が何の為にこの疑念が消えず、また北部一帯に頻発する爆発の、これもまた誰が何故にこの思いと家族への心配が募り膨み、二人は職を辞し、帰郷したのであった。

陽光の下では青緑色に輝くアリー聖廟のドームがこの日、夕靄の彼方で平板なシルエットに見える。白い鳩の群が旋回する姿は変わらない。斑の鳩もこの群に入っていると四十日後には白くなる、と人々はいう。

三月廿一日、金銀のテープを巻き先端に色とりどりの旗を翻す十米近い旗竿ジャンダが立つ。人々が集い新春を祝う祭は四十日間続く。

兄弟の母は四十年前、祭の初日、難産の末二つの生命をこの世に届け、自らは逝った。一般に誕生日を意識しないこの地で、毎年祭の初日が二人にとっては当然、特別な日なのだ。

騒乱の煽りで店頭が傷んだ馴染みのチャイハナを見舞った兄が戻り、ジャンダは例年通り、と伝える情報に弟は表情も変えず、黒皮の上着にヴェルサーチのフェイク・ジーンズという今風の身なりの割に老人めき、真顔のまま、チエル（四十）、チエルと呟く。兄はただ微笑している。

マザール西南山中の「四十姫岩（カラ・イ・チエルドフタリン）」更に南の谷深く「四十柱洞穴（チエルストゥーン）」、アラビアの有名な盗賊の手下は四十人、この地に限らずイスラム世界に四十は珍しくない。理由は誰も知らない。

心成し常より濃い夕闇の迫る廟の方角から鳩の群が兄弟の上まで飛来、そして羽音を鳴らし、嘘のあるドームへ向った。この日最後の旋回である。

兄弟は手をつなぎ、家へ向って歩き始めた。

（1）西欧のメイ・ポールに通じる春の行事

（2）チエルの綴りは一字異なるが同音で「勝利・栄光」を意味する語があり、それに通じるとの説も。

医者、用水路を拓く

アフガンの大地から世界の虚構に挑む

中村哲 用水路建設事業の7年をつづけた感動の記録 【5刷】1800円

辺境で診る辺境から見る

【5刷】1800円

医者 井戸を掘る 【12刷】1800円

医は国境を越えて【7刷】2000円

ダラエ・ヌールへの道

【5刷】2000円

ペシャワールにて 【8刷】1800円

アフガン農業支援奮闘記

高橋修・編著 2500円

聖愚者の物語

甲斐大策

1800円

石風社 福岡市中央区渡辺通2-3-24
電話092(714)4838

人は愛するに足り、
真心は信ずるに足る

アフガンとの約束 2000円

中村哲／澤地久枝(聞き手)

岩波書店 東京都千代田区一ツ橋2-5-5
電話03(3464)4000

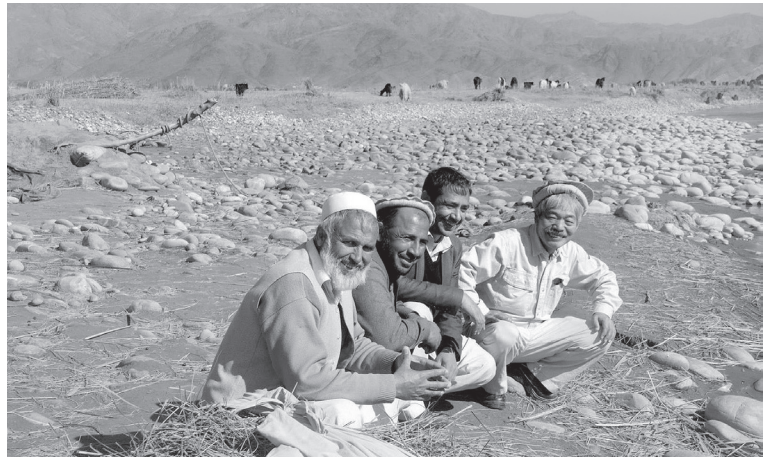
天、共に在り

アフガニスタン三十年の闘い

中村哲 1600円

NHK出版 東京都渋谷区宇田川町41-1
電話03(3464)7311

価格はすべて本体価格(税別)です



東ワーカーが現地で一緒に働くことになる、中村医師、エンジニアディダール、エンジニアファヒーム、パチャグル現場事務所責任者

てあるのです。大きな力をいかに拡散させていることか！

もうひとつの技法は、堰全体に二〇〜四〇cmの石を突起させるように敷いた突起石です。石に水があたり、水ははじけるように拡散し力を失います。堰全体がなめらかな面ではなく、石を突起させたポコポコな面。どの場所をみても、石に水がぶつかかり、白波をおこし勢いを弱めるように働きます。コンクリートではこのような発想には至らないのではないかと思います。水の流れは勢いがあるものだと考え、機能と構造によりこれにくくしているのです。

私は建築現場で働く期間が長かったし、よく川で遊んでいましたので、建物と、魚や貝などの生態について考えるのが好きです。

覚える仕事はたくさんありますが、並行

して現地での活動につなげられるよう、河のこと、堰のこと、水門、沈砂池、土砂吐きなど、先生が確立してこられた工法を理解し、技術の習得をしていきたいと思っております。

▼寄付をしてくださる皆さまへ

*当会は法人格を持たない「任意団体」です。お送り下さったご寄付については税金控除の対象となりません。予めご了承頂きますよう、お願いいたします。

▼事務局移転のお知らせ

*昨年五月に移転しました。
新住所：〒八〇〇〇三三 福岡市中央区警固一―一七 ハイツみかげ八〇三号
(電話・FAXは変わりません)

▼未使用の切手、書き損じハガキ(官製ガキ・年賀ハガキ)をお送り下さい

*引き出しの中などに眠っているものをお送りいただければ幸いです。会報発送等に使用させていただきます。なお、外国の切手は取り扱っておりません。

▼現地活動を紹介するパンフレットをお送りします

*ペシャワール会の活動をご紹介されるときにお使いいただけるものです(払込用紙がついています)。ご希望の方は遠慮なく事務局にお申し越し下さい。パンフレットはA3変形を四折したもので、長形の定形封筒に入る11・4×22・5cmサイズ、カラー版です。

●事務局長便り

*江戸時代に古賀百工が完成した山田堰（福岡県朝倉市）は、現地灌漑事業の原点の地ですが、訪問者が相次いでおります。昨年春にはアフガン農村開発大臣が、年末にはアフガン大統領特別代行も、曇と寒風の中熱心に見学され、その際駐アフガニスタン・日本大使も同行されました。その時の大統領代行の挨拶、「紛争は職がないから起こっているのです。アフガンで今必要なのは経済活動であり、その基礎は農業です」という言葉は印象的でした。

中村医師の報告にありますように、現地事業はクナール河の両岸で展開されていますが、その事業の方式と成果には、アフガン政府、日本政府、国連関係機関も関心を持ち始めています。今年はPMSの灌漑方式が、アフガニスタン全土で展開されるための一里塚かと思えます。それを支える日本側事務局の事務作業も一挙に増えつつあります。これまでの「現地連絡班」を、専従者五人の「現地支援室」（仮称）として拡充し、サポート致します。

◎村から

*手にいっぱい汗をかいて、ドキドキしながらペシャワール会事務局のドアを開けたのは、ちょうど一年前のことでした。一五年前、初めて中村先生の講演を聞いた時、その理論と実践、そして深い信念と情熱に心揺さぶられ、自分に

も何かできるのではないかなと思えました。一

歩踏み出すのに長い時間がかかりましたが、今では暖かい事務局の皆さんに囲まれて、楽しくお手伝いさせていただいています。これからもアフガンの人々に想いを馳せながら、微力ですが末長く携わっていきたくと思っています。（SH）

*東京から転勤で福岡に戻って来てペシャワール会事務局に出るようになって、一九九九年が過ぎた。二〇〇一年九月一日のテロ勃発以前の◎村は、忙しいながらもどこか牧歌的な雰囲気か漂っており、MLライターが記した「ペシャワール会事務局は地味で煩雑な日常作業を日々なすボランティアが集う、居心地の良い小さなオアシス」がぴったりだった。東京にいた頃

も、ペシャワール会関東連絡会に五、六人が年四回寄り集まり関東地区の会報発送作業を細々と楽しくやっていた。9・11を機にペシャワール会ボランティアの方々が増し、二〇〇〇年以降の大干ばつに対応して、現地事業の拡大により◎村の作業も急拡大し、いくつかの作業班で分担して機能的に行われるようになった。でも、◎村に集う方々は相変わらず「若いも若き」も「古きも新しき」も皆ワイワイガヤガヤと作業をこなし、たまに開かれる懇親会で時を忘れて楽しむ「良き雰囲気」は続いています。初めての方もどうぞお気軽に◎村をお訪ね下さい。

(MF)

会 則

①本会の名称をペシャワール会とする。
②本会は、中村哲医師のパキスタン北西辺境州ならびにアフガニスタンでの医療活動などを支援し、必要な情宣・募金活動とともにワーカーの派遣を行うことを目的とする。

③本会は、思想・信条にとらわれず、「支え合い」の精神で一致して会を運営する。
④会員は年額三、〇〇〇円、学生会員一、〇〇〇円、維持会員一〇、〇〇〇円の年会費を納入する。

⑤会員はそれぞれ可能な範囲で、自ら創意工夫して自由なやり方で支援活動を行う。

⑥本会は会報を発行し、会報を通じて活動を報告する。

⑦本会は若干名の理事、監事を選任し、会の運営を行う。

⑧毎年一回総会を開き、事業および会計について報告する。

⑨本会の事務局をFARAHOUSE（〒八一〇〇〇二三 福岡市中央区警固二一一一七 ハイツみかげ八〇三号 Ⅱ）
Ⅱ 〇九二一七三一一二三七二）内におく。

総会、現地報告会は、原則として毎年六月第一土曜日に開催いたします。